

問一 次の問いに答えなさい。

- (ア) 次の1～4の各文中の——線をつけた漢字の読み方を、ひらがなを使って現代仮名遣いで書きなさい。
- 1 彼女はとても勇敢だ。
 - 2 自転車で疾走する。
 - 3 俊敏な身のこなしに感心する。
 - 4 服の縫いを丁寧に着う。
- (イ) 次のa～dの各文中の——線をつけたカタカナを漢字に表したとき、その漢字と同じ漢字を含むものを、あとの1～4の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

a 人材確保がキユウムとなっている。

1 カンキユウをつけて読む。 2 キユウカをとって旅行する。

3 強いダキユウを捕る。 4 セイキユウされた金額を確認する。

b マイゾウされた宝を探す。

1 ドウゾウを建てる。 2 カンゾウをいたわる。

3 内容をゾウホする。 4 野菜をレイゾウする。

c ダキヨウを許さない。

1 ソッキョウで演奏する。 2 新聞社がキョウサンしている。

3 キョウエイの選手をめざす。 4 商品のキョウキユウが追いつかない。

d 目上の人をウヤマウ。

1 具体的なセイサクを考える。 2 望遠鏡でエイセイを観察する。

3 警察官がケイレイする。 4 不可能と判断するのはソウケイだ。

- (ウ) 次の例文中の——線をつけた「が」と同じ意味で用いられている「が」を含む文を、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

例文 新しい電子辞書が欲しい。

1 彼は足も速いが力も強い。

2 友達を訪ねたが留守だった。

3 授業で我が国の歴史を学ぶ。

4 先月公開された映画が見たい。

- (エ) 次の短歌を説明したものと最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

佐藤 佐太郎

1 空に赤色が広がるさまをひらがなで表し、夕暮れ時のもの悲しさを忘れて見入った姿を明示することで、静かな喜びを鮮明に描いている。

2 赤く染まった空の美しさを聴覚的に捉え、時間が経過して色あせたさまを自らとの距離として示すことによつて、効果的に描いている。

3 街を染める夕焼を擬人的に表し、あつけなく夜が訪れたことへの孤独を暗示することで、あらがうことのできない自然を壮大に描いている。

4 激しい音が響く中で目にした夕焼を直喩で示し、赤色が薄れて闇に包まれた後の静けさと対比させることによつて、感傷的に描いている。

問二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある日、「盗人」は道で「僧」と出会い、祈りの力によって善人にしてほしいと頼んで別れた。その後、「盗人」と「僧」は再び出会った。

盗人、僧の袖を控へて、怒つて申しけるは、「われ御辺を頼むといへども、その甲斐なし。祈誓したま

はずや。」と申しければ、僧答へて曰はく、「われその日より片時のいとまもなく、御辺のことをこそ祈り

候へ。」とのたまへば、盗人申しけるは、「おことは出家の身として、虚言をのたまふものかな。その日よ

り悪念のみこそおこり候へ。」と申しければ、僧の謀に、「にはかに喉渴きてせんかたなし。」とのたまへ

ば、盗人申しけるは、「これに井戸の侍るぞや。われ上より繩をつけて、その底へ入れ奉るべし。飽くま

で水飲みたまひて、上がりたく思しめし候はば、引き上げ奉らん。」と契約して、件の井戸へ押し入れけ

り。かの僧、水を飲んで、「上げたまへ。」とのたまふとき、盗人力を出だしてえいやと引けども、

いささかも上がらず。いかなればとて、さしうつぶして見れば、何しかは上がるべき、かの僧、そばなる

石にしがみつきておるほどに、盗人怒つて申しけるは、「さても御辺は愚かなる人かな。その儀にては、

いかが祈禱も験あるべきや。その石放したまへ。やすく引き上げ奉らん。」と言ふ。僧、盗人に申しける

は、「さればこそ、われ御辺の祈念をいたすも、このごとく候ふぞよ。いかに祈りをなすといへども、ま

づ御身の悪念の石を離れたまはず候ふほどに、御辺のごとく強き悪念は、善人になりがたふ候ふ。」と申

されければ、盗人うちうなづみて、かの僧を引き上げ奉り、足元にひれ臥して、「げにもかな。」とて、そ

れより元結切り、すなはち僧の弟子となりて、やんごとなき善人とぞなりにけり。

〔伊曾保物語〕から。

(ア) — 線1「虚言をのたまふものかな。」とあるが、「盗人」がそのように言った理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「盗人」の悪念を消し去るために力を尽くしていると「僧」は言うものの、いまだに効果が表れていないから。

2 「盗人」の出家を手助けするために準備していると「僧」は主張するものの、少しも進展が見られないから。

3 改心しようと思ったときから「僧」に教わったように祈りをささげてきたが、悪念は消えることがないから。

4 善人になりたいと思ったときから「僧」に言われたとおり修行に励んできたが、全く心穏やかにならないから。

(イ) — 線2「件の井戸へ押し入れけり。」とあるが、「盗人」がそのようにした理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 水が飲みたいという「僧」の願いをかなえれば、悪念は消え去って善人になれると確信したから。

2 「僧」が祈りに専念していなかったことを隠そうとしたため、仕返しをしようと思いついたから。

3 出家したいという願いに耳を貸さず、自身の望みを優先する「僧」の身勝手さに腹が立ったから。

4 喉が渴いたという「僧」の言葉を聞いたので、満足するまで水を飲んでもらおうと思ったから。

(ウ) — 線3「いかが祈祷も験あるべきや。」とあるが、それを説明したのとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 人を導く立場にもかかわらず、石に執着して修行をおろそかにするような愚かな「僧」の祈りには効果など期待できないということ。

2 自ら石にしがみついておきながら、引き上げてほしいと訴えるような愚かな「僧」の祈りには効果など期待できないということ。

3 重い石を離さずに、引き上げてくれないと文句ばかり口にするような愚かな「僧」の祈りには効果など期待できないということ。

4 水を全く飲むことなく、落ちている石に気をとられてばかりいるような愚かな「僧」の祈りには効果など期待できないということ。

(エ) 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「盗人」は、出家したいという訴えを一度は断られたが、困っていた「僧」の手助けをしたことが高く評価され、弟子になることが認められた。

2 「盗人」は、強い悪念ゆえに改心は難しいと皆から言われていたが、あきらめることなく「僧」が祈り続けたおかげで、善人になることができた。

3 「盗人」は、「僧」が持つ祈りの力ばかりをあてにしていたが、まず自身が悪念を捨てようとしなければならぬと説かれ、すっかり心を改めた。

4 「盗人」は、「僧」が持つ祈りの力を信じられず心を閉ざしていたが、修行の大切さを懸命に伝えようと熱意に心を動かされ、出家を決めた。

問三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「三十次郎」は、オーストラリアへ行った兄「番生」に代わり、一時期は経営が傾いていた「中島クリーニング」を引き継いだばかりである。父「洋二郎」の代から「中島クリーニング」を支えてきた染み抜き職人「長門（長さん）」と「三十次郎」は、連れだって中華街へ出かけ、飲食店に入った。

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(野^の中^{なか} ともそ「洗^{クリーニング}濯屋三十次郎」から。一部表記を改めたところがある。)

(著作権上の都合により省略)

(注) せがれ＝息子のこと。

健啖家＝大食いの人のこと。

このハンカチ＝「三十次郎」は、「牧子」が好んでいた、中国の都市スワトウで作られたレーズ地のハンカチを飲食店に入る前に見つけ、プレゼントするために購入している。

スワトウ＝中国の都市。レースや刺繍ししゅうが有名である。

(ア) —線1「その顔がその日初めて、まぶしい陽射しに困惑するみたいな不可思議な色に染まっていた」とあるが、そのときの「三十次郎」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 跡継ぎとして頼りにするような言葉を「洋二郎」が残していたと「醫生」から聞いたことを思い出して、誇らしく思うものの応えられていないことを歯がゆく思っている。

2 ハンカチを色水で染めた作品を褒める言葉を「洋二郎」が残していたと「醫生」から聞いたことを思い起こし、喜びを覚えるものの店長としては未熟な自分を恥じている。

3 自分の将来を楽しみにしているというような言葉を「洋二郎」が残していたと「醫生」から聞いたことを思い起こし、改めて嬉しく思うとともに照れくさくも感じている。

4 家族を和ませるための実験を喜ぶ言葉を「洋二郎」が残していたと「醫生」から聞いたことを思い出して、戻らない過去を寂しく感じるとともになつかしさも覚えている。

(イ) —線2「そう、ですか。そんなことを言いましたか。」とあるが、ここでの「長門」の気持ちをふまえて、この部分を朗読するとき、どのように読むのがよいか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「洋二郎」が「三十次郎」のことも気にかけていたとわかって驚くとともに、新たに知った「洋二郎」の一面を心に描いて感慨にふけっていることがわかるように、ゆっくりと噛みしめながら読む。

2 「洋二郎」が「三十次郎」の無責任さを黙認していたと知って落胆するとともに、以前から抱いていた「三十次郎」への不信感をあらわにしていることが伝わるように、厳しく責める口調で読む。

3 「洋二郎」がハンカチを染めた「三十次郎」のことを許していたと知り、染み抜き職人として「洋二郎」に裏切られたと気づいた怒りを抑えていることがわかるように、声を押し殺しながら読む。

4 「洋二郎」は「三十次郎」を怒鳴りつけてばかりいたが、跡継ぎとして「三十次郎」に期待するがゆえの行動であったことに気づいて納得していることが伝わるように、明るく朗らかな調子で読む。

(ウ) —線3「長門は泣きたいような笑いたいような気持ちを抑え、ゆっくり首を振った。」とあるが、そのときの「長門」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「三十次郎」の話に聞き入っていた自分に気づき、人の心をつかむのが上手な「三十次郎」を見直したものの、気持ちを素直に伝えることは腹立たしく思えてごまかそうとしている。

2 頼りなく見える「三十次郎」に「中島クリーニング」が救われたのではないかと思ったものの、こみ上げてくる思いを伝えることはせず、自分の胸にとどめておこうとしている。

3 楽天的な性格の「三十次郎」に「牧子」まで希望を持っていたことが許せず、染み抜き職人として尽力してきた過去の自分が愚かに感じられ、うそであってほしいと思っている。

4 「三十次郎」のつけた染みが「中島クリーニング」のためには不可欠だったと理解はしたが、染みは抜くべきものだという信念が揺らいだことを、すぐには受け入れられずにいる。

(エ) —線4「そこにいまは、レースに縁取られた家族の日々が透けて見える。」とあるが、そのときの「長門」を説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 スワトウのハンカチを見て、家族のことに思い悩む「牧子」の姿が想起されたが、それぞれを思いやる気持ちで家族はつながっていたとわかり、温かい思い出も確かにあったのだと認識を改めている。
- 2 スワトウのハンカチを見て、家族の危機にも気丈に振る舞う「牧子」の姿が想起されたが、思いも寄らなかった家族それぞれの哀しみを知り、本当の気持ちをしようとしていなかったと痛感している。
- 3 スワトウのハンカチを見て、家族のことに絶望する「牧子」の姿が想起されたが、一つの目標に向かって互いに励まし合ってきた家族の歩みを知り、強いきずなに気づいていなかったと実感している。
- 4 スワトウのハンカチを見て、家族の危機にも希望を抱き続ける「牧子」の姿が想起されたが、惜しめない努力で家族は結ばれていたとわかり、人知れず涙にくれる日々もあったのだと考え直している。

(オ) —線5「まあ、染みのついたシャツの一枚ぐらひは、私も残しておくと思いますか。」とあるが、そのときの「長門」を説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 染みに対する独特な考え方は受け入れられないが、頑固な「洋二郎」と相反する柔軟さには魅力を感じ、前途多難かもしれないが自分も「三十次郎」とともに成長していこうと心に決めていく。
 - 2 染みに対する「三十次郎」の考え方には感激したものの、経験不足からくる店長としての未熟さは無視することができず、いまは亡き「洋二郎」の代わりに自分が育てていきたいと感じている。
 - 3 染みに対する考え方に共感はできないものの、信念を持っているところには「洋二郎」と通じるものを感じ、「三十次郎」に寄り添いながらこれからも見守っていこうと思いを新たにしている。
 - 4 染みに対する考えを押し付けてくる「三十次郎」に腹は立つが、世話になった「洋二郎」の息子である以上は意見することもできず、あきらめて支えていくしかないと感じて聞かせている。
- (カ) この文章について述べたものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。
- 1 「洋二郎」との心温まる思い出を「長門」と分かち合ったことで、自覚していなかった魅力に「三十次郎」が気づいていくさまを、染みに関する話や多くの比喩を用いて生き生きと描いている。
 - 2 優秀な職人である「長門」と関わる中で、「洋二郎」に叱られてばかりだった「三十次郎」が店長として大きく成長していくさまを、兄との対比や家族の思い出を交えて感動的に描いている。
 - 3 「洋二郎」とは異なる奔放な振る舞いに隠れた信念に触れたことで、「頑固な「長門」が「三十次郎」に深くのめり込むさまを、家族の過去やさまざまな料理の描写を用いて鮮やかに描いている。
 - 4 これまで知り得なかった「洋二郎」の話聞く中で、「長門」が気づいていなかった「三十次郎」の姿が浮かびあがってくるさまを、回想やハンカチにまつわる話を通して印象的に描いている。

問四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(中屋敷 均「科学と非科学」から。一部表記を改めたところがある。)

(注) 教条主義Ⅱある特定の原理や原則に基づいて物事を説明しようとする応用のきかない考え方。

プロセスⅡ手順。方法。

峻別Ⅱ厳しく区別すること。

ネイチャーⅡ学術雑誌のうちの一つ。

瓦解Ⅱ壊れること。

伽藍Ⅱ寺の建物の総称。

バザールⅡ市場のこと。

(ア) 本文中の A B に入れる語の組み合わせとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|-----|---|---|------|---|-----|
| 1 | A | もちろん | B | しかし | 2 | A | なぜなら | B | そこで |
| 3 | A | たとえば | B | もし | 4 | A | ところで | B | だから |

(イ) 線1「それはまるで生態系における生物の『適者生存』のようである。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 科学的知見が評価される際に、科学者が他の仮説を批判することで自説の価値を高めてきたさまは、環境に適さないものを犠牲に繁栄する生物のあり方と似ているということ。
- 2 ある科学的知見が人々の需要に合わせて修正される中で、他の仮説を排除して不動のものへと進化してきたことは、強い生物だけが生き延びていくさまと似ているということ。
- 3 様々な科学的知見が選別される過程において、残った仮説がさらに良いものへと進化してきたことは、より環境に順応した生物が生き残っていくさまと似ているということ。
- 4 多くの科学的知見が存在する中で、科学者が互いの学説を参考にし合って適応度を上げてきたさまは、互いの特長が影響し合って進化する生物のあり方と似ているということ。

(ウ) 線2「科学という体系が持つ構造的な宿命」とあるが、その内容を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 科学の価値は時代によって変動するため、永遠に有用性を維持することはできないという宿命。
- 2 科学は変化を前提とするものであるため、絶対的に正しい科学的知見は存在し得ないという宿命。
- 3 科学の価値は進化し続ける点にあるため、科学者も成長し続ける努力を強いられるという宿命。
- 4 科学は学説の公平性を最優先するため、科学者は科学的知見の修正から逃れられないという宿命。

(エ) 線3「より正確な判断のために、対象となる科学的知見の確からしさに対して、正しい認識を持つべきだ」とあるが、そのことについて筆者はどのように述べているか。それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 様々な科学的知見の確度の違いを見極めていくことが必要となるが、情報の収集や確度の判定には課題も多くあり、専門家でない人々が高度な判断をすることは難しさが伴う。
- 2 科学的知見についての完全な情報が公開されていないことに加え、専門家と非専門家が同じ条件下で議論をかわすことは無意味なため、確度を正しく認識することは現実的ではない。
- 3 現在残っている科学的知見は確度の高いものばかりだが、情報公開の程度や調査規模を判断する方法には問題もあり、非専門家が分析して行動の指針とすることには危険が伴う。
- 4 科学的知見の質や研究方法に対して疑義を唱える専門家がいることに加え、どの分野も画一的な視点によって調査されているため、確度を正確に判別することは専門家でも困難だ。

(オ) —線4「権威の高さと情報の確度を同一視して判断するというやり方」とあるが、そのことについて筆者はどのように述べているか。それを説明した次の文中の I・II に入れる語句として最も適するものを、本文中の▼から▲までの中から、I については六字で、II については七字でそれぞれ抜き出し、そのまま書きなさい。

権威の高さと情報の確度を同一視する手法は、I という利点はあるが、行き過ぎてしまえば何かにすぎりたいという心理と結びつき、権威あるものは正しいというようなII に陥りかねない。

(カ) —線5「権威主義が、科学の生命力を蝕む」とあるが、その理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 権威主義者は、人々の不安を解消して信頼を勝ち取ることを重視し、揺るぎない真実を世間に広めるといふ科学の目的を軽視してしまうから。
- 2 権威主義者は、自分の支持する学説が他の学説より優位であることを示すため、科学の特徴である一貫性を無視して次々と仮説を修正するから。
- 3 権威主義者は、正しさよりも世間の関心を集める話題性を優先するため、真実を追究して変化するという科学の長所を消し去ってしまうから。
- 4 権威主義者は、権威を失うことや自分の信じた価値が崩れることを恐れ、科学の本質である修正や変化を受け入れられず現状に固執するから。

(キ) —線6「ランダムな方向を持ったものの集合体で良い」とあるが、その理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

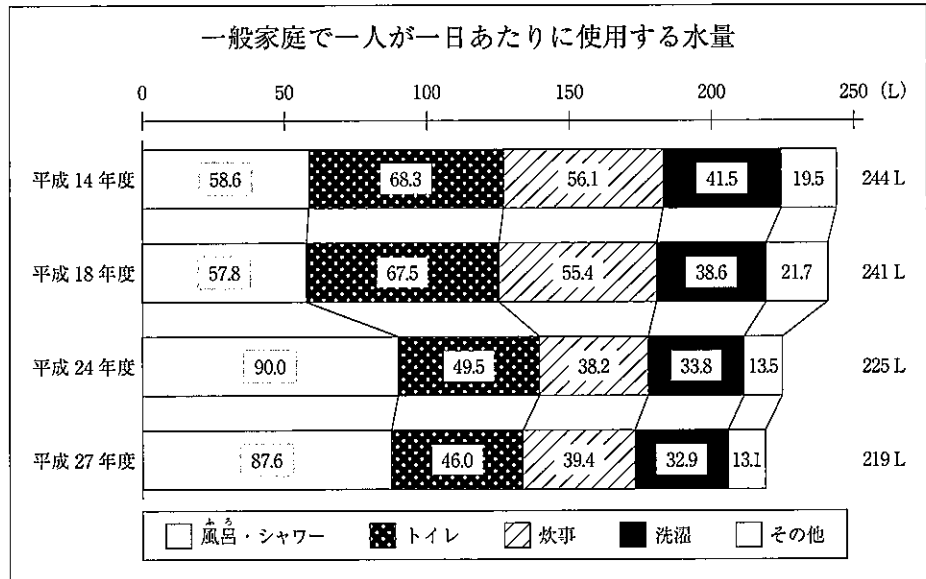
- 1 科学で重要なことは、ある学説を先入観なく理解しようとするひたむきな姿勢であり、専門家でない人々が思考したものにこそ意味があるから。
- 2 科学を支えているのは、過去に提唱された学説に基づいて判断しようとする誠実な態度であり、正しいかどうかを追究することは必要ではないから。
- 3 科学で大切なのは、ある学説が信頼に足るものかどうかを深い知識を用いて証明することであり、専門家による思考の集積にこそ価値があるから。
- 4 科学において必要なことは、様々な考えを持つ人々が自ら情報を集めて思考を深化させることであり、一つに集約することは重要ではないから。

(ク) 本文について説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 様々な個性を持つ研究者の中から次代を担う科学者が現れている意義を、生物の遺伝子変異の過程と重ねて説明した上で、「科学」の伝統は守るべきだと論じている。
- 2 世界の姿を解明するために変化し続けていく科学のあり方を、権威主義との関係にも触れながら説明した上で、誰もが「科学」に携わることができることと論じている。
- 3 自ら情報を集めて真摯に考える職業的科学者の重要性を、「科学」の歴史を根拠に説明した上で、あらゆる分野において専門家の意見に従うのが良いと論じている。
- 4 再現性の高さ故に信頼を得てきた科学の姿を、人間の心理を持つ弱点と関連付けながら説明した上で、すべての人が「科学」に寄与しなければならないと論じている。

問五 中学生のAさん、Bさん、Cさん、Dさんの四人のグループは、「総合的な学習の時間」で水の使用量について調べ、話し合いをしている。次のグラフ、表1、表2と文章は、そのときのものである。これらについてあとの問いに答えなさい。

グラフ



東京都水道局「一般家庭水使用目的別実態調査」より作成。

Aさん

私たちは水の使用量について、様々なことを調べてきましたね。近年、家庭用水を含む生活用水の使用量は減少傾向にあり、一人が一日あたりに使用する量も減っているそうです。

Bさん

ここでグラフを見てください。一般家庭において、一人が一日あたりに使用している水量を目的別に分け、年ごとに示したものです。これを見ると、風呂・シャワー ことがわかります。

Cさん

なるほど。他には、一人が一日あたりに使用する家庭用水の使用量全体が減っていることもわかりますね。

Dさん

水の使用量の変動には、気候や生活スタイルの変化などの影響もあると思いますが、なぜ家庭用水の使用量は減ったのでしょうか。

Cさん

それを考えるために、表1を見てみましょう。便器で使用する一回あたりの水量を発売年ごとにまとめたものです。ここからは大き

表1

発売年	機能		
	大	小	eco 小
昭和 51 年	13.0		
平成 5 年	8.0	6.0	
平成 18 年	6.0	5.0	4.5
平成 19 年	5.5	4.5	4.0
平成 21 年	4.8	4.0	3.8
平成 24 年	3.8	3.3	3.0
平成 29 年	3.8	3.3	3.0

一般社団法人日本レストルーム工業会「各社節水便器の変遷」より作成。表1内の「eco小」はごく少量の水を流す場合に使用する機能をさす。

表2

調査年	水の使い方				特に気にしていない その他
	豊富に使っている		節水している		
	節水は考えず豊富に使う	節水は必要だが豊富に使う	ある程度節水している	まめに節水している	
昭和 61 年	12.3%	27.3%	41.5%	9.7%	9.2%
平成 6 年	9.5%	25.4%	50.8%	9.1%	5.1%
平成 11 年	6.0%	21.7%	50.3%	13.9%	8.3%
平成 13 年	5.1%	24.5%	54.2%	10.7%	5.4%
平成 20 年	4.0%	21.8%	58.3%	14.0%	1.8%

内閣府「『節水に関する特別世論調査』の概要」より作成。

な変化が読み取れますね。使用者が用途ごとに水量を切り替えられる機能も開発されており、公
共施設でもそのような機能が搭載された節水便器を見かけることが多くなってきました。

Bさん 便器以外の水利用機器で言えば、風呂水をくみ上げる機能がついた洗濯機も販売されています。
また、手で洗うときの十分の一度の水量で洗える食器洗い乾燥機もあるそうです。

Aさん 便器や洗濯機などの水利用機器は進歩してきたのですね。新しい技術は私たちの生活を快適に
してくれるだけでなく、限りある資源を有効に使うことにも役立ちそうです。

Dさん では、これからも新しい水利用機器の開発が進んでいけばよいということですね。

Bさん 本当にそれだけでよいのでしょうか。表2を見てください。普段の生活でどのような水の使い
方をしているか調査した結果を、年ごとにまとめたものです。「節水している」と答えた人は、

昭和六十一年では五十パーセント程度でしたが、平成二十年では七十パーセントを超えています。

Cさん 平成二十年の調査で「豊富に使っている」と答えた人の中にも、節水は必要だと考えている人
は全体の二十パーセント程度いますから、実践しているかどうかは個人差があるものの、九十
パーセントを超える人が節水の必要性を認識していると言えますね。

Dさん 一方、「節水は考えず豊富に使う」と答えた人は、昭和六十一年では十二・三パーセントでし
たが、平成二十年では四・〇パーセントとかなり低い割合になっています。節水に対する意識が
これほど変化しているとは知りませんでした。

Aさん これまでの話を総合すると、表1と表2から読み取った内容から、家庭用水の使用量が減った
主な理由は、.....からだと考えられます。

Dさん そうですね。本日の話し合いをきっかけに、改めて限りある水を大切に使用していきたいと思いました。

(ア) 本文中のに入れるものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 平成27年度の家庭用水の使用量の中で、「風呂・シャワー」の使用量は、「トイレ」の使用量の半分以下になっている
- 2 平成27年度の家庭用水の使用量の中で、「洗濯」の使用量は、「風呂・シャワー」の使用量の三分の一以下になっている
- 3 平成27年度は平成14年度と比べて、「トイレ」の使用量は三割程度減少しており、「洗濯」の使用量は二割程度減少している
- 4 平成27年度は平成14年度と比べて、家庭用水の使用量全体に占める「炊事」の使用量の割合が、三分の一以下に減少している

(イ) 本文中の.....に適する「Aさん」のことを、次の①～④の条件を満たして書きなさい。

- ① 書き出しの「家庭用水の使用量が減った主な理由は、.....」という語句に続けて書き、文末の「からだと考えられます。」という語句につながる一文となるように書くこと。
- ② 書き出しと文末の語句の間の文字数が二十五字以上三十五字以内となるように書くこと。
- ③ 表1と表2から読み取った具体的な内容に触れていること。
- ④ 「技術」「意識」という二つの語句を、必ずしもそのまゝ用いること。

(問題は、これで終わりです。)

